

# 国語センスをアップするマル秘レポート

SS-1 の特別レポート、「国語センスをアップするマル秘レポート」では、国語のセンスを磨きあげることがを目的とした2つの発問トレーニングの方法をお伝え致します。

特に、日常生活の中でしか育むことのできない「感情の受信・発信」をベースとした経験的知識についてのトレーニングをご紹介します。

## 発問トレーニング(1)

---

トレーニング(1)は、お子さんが自分の感情を言語化、つまり言葉として適切に表現することができるようになるためのトレーニングです。

「ある場面描写を読んだ時に、その場面が持つ感情的意味を的確に捉えることができるようにする」ことを目標とします。

---

## 発問トレーニング(2)

---

トレーニング(2)は、言葉を見て、その言葉がどのような感情を持つのかという事を自分の中で再現するトレーニングです。

「言葉の持つニュアンスを身につける」事を目標とします。

---

1日5分、3ヶ月間、トレーニング(1)と、トレーニング(2)を毎日交互に続けて下さい。

本来、生まれてきてから日々の生活の中でゆっくりとコツコツ培われてくる知識を、一気に3ヶ月で補完してしまうためのトレーニングですから、3ヶ月間、ぜひじっくりと取り組んでみて下さいね。

トレーニングは、お母さんがお子さんに質問を投げかける形式で行ないます。

その際、お母さんはご自身の表情と声のトーンにご注意ください。

チェックポイントは3つ。

[1]眉間にしわが寄っていませんか？

[2]目は笑っていますか？

[3]声のトーンは優しいですか？

取り組んでいただくトレーニングは感情のトレーニングでもあります。

覚えていればそれでオッケーという暗記トレーニングとは違います。ですから、上記の3つの点には

特に注意して取り組んで下さいね。

お子さんに回答を急かしたり、お母さんがイライラしたりしてもうまく行きません。

色々と注文が多いトレーニングだなあと思われたかもしれませんが、ぜひともお母さん自身が楽しみながら取り組む事を目標にしてください。

お母さんが楽しいと感じていることは、お子さんも楽しんで取り組めるものなのです。

---

すぐにイライラしてしまうというお母さんへ

---

まずは簡単な方法からお話します。

イライラしてきたら、目を閉じて6秒待ってから自分に質問してみましょう。

「次に私が取るべき行動はなんだろう？」

そうすると、イライラや怒りに任せた自動的な反応をとらず、冷静で適切な自分に戻って判断できるようになります。

それでもだめだという場合は、次ページからのトレーニングとは別に、お母さんだけ以下の方法を試してみてください。心を安定させ、お子さんも安定させる効果的な方法です。

お母さんがお子さんを見ていて、「続けてくれたらいいな」「これは素晴らしかったね」と思えた行動を5つ、毎日紙に書き出して冷蔵庫などお子さんが良く目にする場所に貼り付ける習慣を身につけましょう。5つ書けなくても構いません。とにかく毎日続けます。

1ヶ月もしないうちに、驚くほどの効果を体験していただけたと思います。

---

## トレーニング(1)

### できごと、感覚を言葉に結びつけるトレーニング

#### 方法

お子さんが学校や塾から帰ってきたとき、今日一日を振り返って、最も印象的だった(心に残った)できごとについて、話してみます。

#### 手順

① 今日はどんなことがあったのかしら？

↓

② 嬉しかったこと、悲しかったこと、楽しかったこと、悔しかったこと、何でもいいから話してみて。

(①から時間がかかっても何も出てこない時にだけ、やさしく話しかけてみてください。)

↓

③ そのとき、どういう気持ちになった？

↓

④ どうして、そう言う気持ちになったと思う？

↓

⑤ そういう気持ちのことをなんて言うか知っている？

聞いていく手順を守っていただくことが前提です。

表現方法は上記の通りでなくてももちろん構いません。

## 成功のポイント

このトレーニング(1)は、習慣にできるかどうか大きなカギになります。

会話が自然に行なわれることを第一に考えましょう！

感情表現を取り扱うのですから、無理強いがあっては意味がありません。

あくまで、どうすれば最もスムーズに行う事ができるのかという点に集中しましょう！

このトレーニングは、できごとや感覚を言葉にする力を向上させること以外に、今日あった事を整理し

てお母さんに伝えるという副次的な効果もあります。

1日でもインプットされた、数多くのできごとをアウトプットするトレーニングにもなり、尚且つたくさ

んお話することで親子の絆を深めることにもなりますね！

## 言葉をできごと、感覚に結びつけるトレーニング

### 方法

書籍「感情表現辞典(東京堂出版)」を利用すればかなり効率よくトレーニングできますが、こだわる必要はありません。

感情を表現する言葉を準備することが必要です。

### 手順

- ① 感情を表現する言葉を一つ選びます。(例えば「顔を真っ赤にする」「青ざめる」など)

(感情表現辞典を利用できる場合は、語句編目次ページから無作為に選び、マーカーなどで印をつけておくと翌日以降も効率良く取り組めます。)

↓

- ② その言葉の表している意味をお子さんと話し合ってみましょう。明確に言葉で説明できなくても構いません。例えば、身振り手ぶりでどんな状態という話し合いでも構いませんし、どんなとき(場面や情景)にこの言葉のような気持ちになるのかという話し合いでも構いません。

(例えば、「お風呂上りに扇風機に当たると青ざめて気持ちいい。」、といったとんちんかんな意見がお子さんから出た場合は、怒るのではなく呆れるのでもなく、正しい場面を伝えてあげてください。)

↓

警告！本レポートは著作権法によって、保護されている著作物です。本レポートを複製・無断転載・流用・販売すること、またインターネットオークションにかけることは、法律によって禁じられています。

③ 時間があれば、その言葉を使ってお子さんと作文をしてみてください。

わざわざノートに書かなくても構いませんし、短い文章で構いません。このとき、やはりとんちんかな作文であれば、お子さんの作文に沿って正しい文に作り直してあげてください。

### 成功のポイント

このトレーニング(2)は、ゲーム感覚で楽しめるかどうか大きなカギです。

どうすれば親子で楽しめるか、と言う点を第一に考えてくださいね。

このトレーニングは、言葉をできごとや感覚に結びつける以外に、人の気持ちを推し量ることができるようになるという副次的な効果もあります。気持ちと状況、言葉が一致して、双方向に理解が進むのですね。